



鈴木校長先生のはなし

校長 越智 宏明

大原中学校に着任して1か月。私はこの学校が大好きになりました。その理由は一にも二にも明るく元気な生徒たちと出逢えたことにあります。始業式で「生徒の皆さん、校長室に遊びにきてください」と言ったところ、その日のうちから大勢の生徒が校長室に来てくれるようになりました。それ以降、毎日数十名の生徒が校長室を訪れてくれるようになりましたが、これが私の一日の最大の楽しみであると同時に元気の源でもあります。

実は、生徒を校長室に自由に出入りさせるということについては、お手本にした校長先生がいます。

大原中学校第16代校長の鈴木一夫先生がその方です。

鈴木元校長先生は、私が朝霞市で教員をしていた時の中学校で校長先生をされていたのですが、いつも校長室に生徒を招き入れ、おしゃべりをしたり、(理科の先生だったので)白衣を着て実験を見せたりしていました。校長室はいつも生徒たちの笑い声であふれ、楽しそうな雰囲気が職員室にいた我々まで伝わってきたものです。

その鈴木先生と私は不思議な巡り合わせで人生が交錯しており、この春、私が大原中学校に着任したのも鈴木先生に招かれたのではないかとさえ思っております。その巡り合わせとは...



連日校長室には、大勢の生徒が遊びに来てくれます！

- 1 私が教師になって最初に着任した学校に、その年の3月まで鈴木先生が勤務していました。
- 2 私が二番目に赴任した学校で鈴木先生の娘さんを教えることとなりました。
- 3 私が旧浦和市の学校から朝霞市の学校に異動した翌年、鈴木先生も朝霞市の学校に異動してきました。
- 4 さらにその翌年、今度は私が、鈴木先生が校長を務める学校に異動しました。
- 5 実はそれまで私は教員採用試験に合格しておらず、臨時的任用教員だったのですが、この年ついに教員採用試験に合格しました(その年の試験会場はなんと大原中でした!)。鈴木先生から朝霞市に残ってほしいと頼まれ、私は地元浦和市ではなく、朝霞市で本採用教員になることを決断しました。
- 6 鈴木先生がさいたま市の学校に戻った翌年、私もさいたま市の学校に戻りました。
- 7 初めて(と言っても一校しか経験していませんが)教頭として着任した学校で、教師になった鈴木先生の娘さんと同僚になりました。因みに鈴木先生自身も以前にその学校で教頭を務めていました。
- 8 鈴木先生と同じ大原中学校に着任しました。

不思議なことに、自分自身の人生の節目節目に鈴木先生が関わっていることが分かります。というより、鈴木先生と人生が交錯するごとに自分の人生のルートが少しずつ変化している気がします。これが「縁」というものなのでしょうか?縁は一度離れたら終わりではなく、その後何度も人生の中で交錯し、人の生き方や考え方に少なからず影響を与えているのだなと知りました。同時に誰とどのような出会い方をするのかがとても大切なことだと実感します。「出会い」と言いましたが、「であい」という言葉には三つの漢字を当てはめることができます。「出会い」は偶然的なものあるいは約束的な「であい」を表します。「出遭い」は好ましくない「であい」、森で熊に遭遇した時などを表します。そして「出逢い」は運命的なものを表します。

この春に皆さんと「出逢えた」縁が、お互いの人生にとって何物にも代え難いものとなることを、今、心から願っています。

鈴木一夫元校長先生は、数年前にご逝去されましたが、私はこの大原中学校で鈴木先生がやりたかったことや出来なかったことに挑戦していこうと思います。それが先生への恩返しになると信じているからです。